

令和2年度 学校アクションプラン 年度末評価

龍谷富山高等学校

重点項目	1. 教科指導	
重点課題	生徒の学習意欲を高めるとともに、自主的に学習活動を進めていく生徒を育てる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習課題を見つけ意欲的に取り組む生徒が少ない一方、学習課題を与えると真面目に取り組む生徒は多い。 ・平日、休日を通して全体的に学習時間が少ない。 ・目標を持って、学習時間の確保や学力向上に取り組む生徒が多くない。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間を＋30分を実践した生徒の割合・・・70%以上 ・目標を持って学習活動に取り組んでいる生徒の割合・・・70%以上 ・学校や家庭での学習時間が不足していると感じる生徒の割合・・・10%以下 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間「＋30分」の目標を、生徒と教員の共通目標として定着を図る。 ・授業内容について、各教科・各教員で検討し、「主体的で、対話的な学び」の実践を通して、学習意欲が高まるよう工夫する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」より 家庭で学習する習慣 ⇒ 身に付いていると思う(生徒 42%)、全く身に付いていないと思う(生徒 26%) ・「学習に関する調査」より (学習時間について) 【通常期間】1時間以上 (平均 24%) 0分 (平均 30%) 多いほうだ (4%) 少ないほうだ (47%) 【考査期間】1時間以上 (平均 80%) 0分 (平均 3%) 多いほうだ (15%) 少ないほうだ (22%) 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標や課題を明確にし、学習の定着を計るために「課題」と「確認」のプレートを使用するように統一化した。 ・休校期間には「学習課題」を郵送し、なるべく学習空白が無いように各学年で取り組んだ。 ・学習内容や学習時間に目標を持って取り組むよう「学習時間調査」を実施すると共に、学校や家庭での意欲や積極性を計る「学校評価アンケート」を実施した。 	
評 価	C	今年度は、新型コロナによる休校措置や行事縮小など、学校生活だけでなく学習環境にも大きな影響が出たことで、学習課題の提供や指導が例年と比較して困難な状況であり、効果的な取り組みができなかった。
次年度へ向けての課題	学習習慣をつけさせるため、継続的な学習課題の提供や内容を各教科や各学年に応じて検討すると共に、「身に付けさせたい力」を共通理解し、具体的な取り組みを実践していきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	2. 宗教教育	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「学園の心」の具現化に努める。特に、感謝(「ありがとう」)を言葉にして伝えられる雰囲気づくりを心がける。 ・慈光堂や教室内で合掌する姿を美しく保つこと(beauty of form＝様式美)と、堂内・教室内に響き渡る歌声を出すことを常に意識する。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂を、本校における「特別な場所」「中心となる場所」として、教員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂では、教員・生徒ともに、人の話に耳を傾ける時間・心を落ち着かせる時間であることを、共通認識とする。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教員であるという意識を高める。 ・「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 ・行事は特別な時間であることを生徒に意識させるため、移動時(入堂前)から静かにする、正装(ブレザー着用)で臨む、念珠を持参する等、担任が教室での指導を徹底する。 	

達成度	新型コロナウイルスの影響で、報恩の日の礼拝や降誕会・全校報恩講といった全校での礼拝、別院参拝やクラス報恩講といった行事が実施されなかったため、評価が難しいところであるが、通常礼拝やクラス礼拝などを再開・継続できたことは幸いである。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス報恩講の代替行事として、学年報恩講を実施した。 ・生徒の作文を引用し後輩へメッセージを送る、生徒がピアノを弾いてその曲に応じた話をする等、講話担当者および勤行担当者が工夫を凝らした。 	
評価	B	新任の先生や宗教教育部の先生、教育実習生、3年の代表生徒や宗育部員など、多くの先生および生徒が、礼拝での講話の準備を徹底し、生徒の琴線に触れる話をした。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全校での礼拝および報恩献金を再開する。 ・学年礼拝の実施は各学年に一任し、クラス礼拝は継続する。 ・報恩の日の生徒による講話を継続する。 ・毎朝の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝、報恩講等の行事が、「言われてみれば確かにそうだな」と気付ける、生徒にとっての良い言語体験となる場としたい。 	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	3. 進路指導	
重点課題	急激な変化に対応し、柔軟に進路を実現する力を身につける。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・大学への進学は推薦が中心である。国公立大学への進学が少ない。 ・プロジェクトSや土曜講習の参加者の取り組みは向上している。 ・就職者の内定率は安定しているが、一部職種については合格率が低い。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の合格者70名以上を目標に、一般入試での合格者を増やす。国公立大学への合格を目指す。 ・厳しい就職環境のもとでの就職希望者の全員合格を目指す。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進学情報を適切に生徒に届けるとともに、学校研究・学校見学・受験先決定のプロセスを明確化にする。 ・就職担当者が40社以上を訪問し、企業と学校との連携を密にする。 	
達成度	3学年団の協力とアドバイスにより、進学については順調に受験先が決定し、合格を勝ちうることができた。就職先についても、求人数の減少はあったものの、付き合いの長い企業を中心に内定を勝ちうることができた。	
具体的な取り組み状況	コロナ禍の中、3学期になって1・2年生の進路ガイダンスがなんとか実施できた。就職者への「応募前見学」は、企業側の協力もあり、ほとんどの企業で実施できた。	
評価	C	大学の合格者が63名と目標に届かなかったこと、国公立大学の合格が0であったことは、真摯に受け止めたい。就職については、全員が内定した。
次年度へ向けての課題	一般入試に対応できる学力を形成するために、授業と課題の役割を考え直さないといけない。就職については、「一人一社制」の見直しについて検討を進める必要がある。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	4. 生徒指導	
重点課題	「龍谷富山高等学校の生徒として誇りを持つ」 <ul style="list-style-type: none"> ・富山県で一番さわやかな挨拶ができることを目指す。 ・いじめを許さない学校づくり、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・時間厳守。5分前行動を実践しゆとりを持って行動する習慣を身に着ける。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年との連携を密にし、いじめにつながる行動の早期発見・対応に努めている。 ・おおむね挨拶はするが、声量や作法に差がある。 ・遅刻の減少など、始業時の5分前行動は身につくつつあるが、ベル着の意識は高くない。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは起こり得るものとして早期発見。対応に努め「いじめゼロ」を目指す。 ・富山県で一番さわやかな挨拶を交わす学校を目指す。 ・時間厳守で規律ある雰囲気を作る。 	

方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の声に耳を傾け小さな変化を見逃さない姿勢を打ち出し、各学年と協力し規律ある学校生活を送れるよう指導する。 ・「学園生活調査」を毎月実施し、生徒が気軽に相談できる体制を整える。 ・挨拶をうまくできない生徒には、教師から元気よく挨拶をし指導する。 ・教員が 5 分前行動を実践し、まず教員自らの行動を示すことで指導する。 	
達成度	ほとんどの生徒が、意欲的に良好な友人関係を築こうとし、挨拶および時間厳守を身につける努力をしている。しかし、一部の生徒に規範意識の薄さが残る。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学園生活調査にて生徒の様子を把握する。 ・教師から積極的に挨拶をする。 ・自ら早めに行動し、時間厳守を徹底する 	
評 価	C	富山県一の挨拶には、まだ達していないと感じる。また、出欠状況についても劇的によくなっていないことから、現状維持とした。
次年度へ向けての課題	大きな問題行動や、いじめと認定される事案はなかったものの、これに甘んじることなく生徒の様子をしっかりと観察し未然防止に努めていきたい。また、活発に挨拶が飛び交うように引き続き挨拶の重要性を訴えていきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	5. 特別活動	
重点課題	集団活動（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）や部活動、奉仕活動等を通して、自主性・責任感・協調性・奉仕の心・思いやりの心などの人間性を育成する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目な生徒が多く、学校行事にも素直に取り組んでいる。 ・おとなしい生徒が多いので、積極性をさらに引き出せるよう、学校行事やホームルーム活動で一人ひとりに役割を与え、生き生きと取り組める場を設定する必要がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事には全員が全力で取り組む。 ・生徒自らが考え、実践していく生徒会を目指す。生徒会執行部から全校生徒に発信、各委員会からクラスの生徒に発信することにより、生徒全体の意識を高め、学校全体を活気づける。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動大会報告、委員会活動の報告・呼びかけを昼休みの放送を通して、全校生徒に発信する。 ・回収運動の月ごとの量をグラフ化したり、委員会でスローガンやポスターを作成したりすることにより、全校生徒の意識を高める。 	
達成度	例年のように福祉施設訪問等は実施できなかったが、生徒会執行部はコロナ禍の中でできることに取り組んでくれた。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期はベルマークを種類ごとに仕分けし、エコキャップをリサイクル業者に搬入した。エコキャップは幼稚園及び富山別院にも協力を仰ぎ、この活動はSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みとして「本願寺新報」に掲載されたが、この新聞の記事がきっかけで、熊本県在住の方からもエコキャップを送っていただいた。 ・生徒会誌『藤苑』（第72号）の編集、関係学校への発送及び「RYUKOKU TIMES」の発行。 ・朝の挨拶運動（毎週水曜日）及び生徒会執行部の定例会（毎週火曜・木曜日）。 	
評 価	C	3学期は活動期間が短く、1・2学期の評価を超えることができなかった。現状維持の評価が妥当だと思われる。
次年度へ向けての課題	次年度が「元の日常」に戻るかどうかはわからないが、今できることにしっかりと取り組んでいきたい。そして、コロナ禍の状況の中で、さらに何ができるのかを生徒たちと一緒に考えていく必要がある。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	6. 環境と健康指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・整った環境で学習や各種活動に取り組むため、環境美化についての意識向上を図り行動化につなげる。 ・「自分の健康(命)は自分で守る」という意識を持ち、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身につけさせる。 	

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・校内のところどころにゴミや綿埃が見られる。 ・自らの健康についての関心が高くなく、健康診断後の受診率も低い。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「校舎は古くても、きれいな学校・気持ちのよい学校」を目指して、丁寧な清掃活動や進んでゴミを拾う姿などが日常化する学校を目指す。 ・健康診断後の受診率の目標値を学級では30%以上、学年及び全校では40%以上を目指す。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日ごとの清掃重点箇所を設定し日ごろからきれいな状態を保てるようにする。 ・特活部(美化委員会)と協力し、環境美化についての意識化を図る。 ・健康診断後、定期的に受診状況を配布するとともに、未受診者には「受診カード」を再発行し保護者懇談会で受診勧奨を行う。 ・「ほけんだより」などを活用して健康に関する情報を提供し、疾病予防のための基本行動（清潔保持、早期受診等）を自ら実践できる態度と意識を喚起する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化については、新型コロナウイルス対策として校内の消毒作業が日常的に行われてきたことから、埃っぽく薄汚れた印象は徐々に薄れてきたように感じる。しかし、清掃箇所によっては掃除が不十分な所もある。 ・健康診断後の受診状況については、21.2%(昨年度 34.9%)と受診率が伸び悩んだが、今年度は新型コロナウイルスによる影響から、健康診断が11月に延期され、結果通知からわずか3ヶ月しか時間がなかったことも一因だと思われる。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、校内の消毒作業が行われたことにより、清掃行為の中に「拭き掃除」という手段が定着してきたように思われる。 ・健康診断の結果通知については、2学期末の保護者懇談会の機会に保護者に受診勧奨をすることで受診率を高めようと計画していたが、一部の生徒には3学期になってからの通知(勧奨)になってしまった。 	
評 価	C	<p>今年度は、年間を通じて、新型コロナウイルスの感染防止の観点に基づいた取り組みが主になった。計画をしていた事業においても実施の延期や中止を余儀なくされたが、この状況下において、健康診断では新しい試みもできたことは1つの成果であったととらえたい。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染防止対策については、マンネリ化や気の緩みによる手抜かりのないよう心がけたい。 ・美化活動においては、生徒と教員の評価がよりよく一致させられるような方策を図っていきたい。 ・心身の健康保持については、自身の健康を意識し、過信することなく日常の活動を実践できるような支援を進めていきたい。 	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった